

第 5 4 回  
東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

平成 25 年 4 月 26 日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第54回船員部会

日 時 平成25年4月26日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、清水委員、箭内委員  
労働者委員 : 高橋(雅)委員、鈴木委員、正路委員(欠席)  
使用者委員 : 鶴本委員(欠席)、佐藤委員、湯村委員

運輸局 : 本田海事振興部長、阿部海事振興部次長  
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長  
鈴木海事振興部船員労政課長、淀川労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について  
(2) その他

### 配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(2月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率推移(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率推移(全国)
- 資料8 新聞情報
- 資料9 人事異動

## 議 事 概 要

### ◎開 会

#### 【海事振興部長】

議事に入る前に、運輸局に人事異動がありましたので、事務局から紹介いたします。

〔別紙 異動者紹介（あいさつ）〕

〔海上安全環境部長退席〕

#### 【海事振興部次長】

〔第 54 回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

#### （１）管内の雇用等の状況について

##### 【部会長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。

お手元にある議事次第の議題（１）管内の雇用等の状況について、事務局から報告願います。

〔船員労政課長より資料 1～7に基づき報告〕

##### 【部会長】

ありがとうございました。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

##### 【高橋委員】

東北管内の求人漁船の「その他」が 5 件ほど増えていますが、この 5 件の内容的な特徴は何でしょうか。

##### 【船員労政課長】

資料 1 の 20 の内訳ということでよろしいでしょうか。

求人の漁船の「その他」20 件の内訳は、漁業取締船が 9 名、小型漁船が 8 名、いか釣りが 2 名 巻き網 1 名ということで合計 20 件となっています。

##### 【高橋委員】

取締船 9 件というのも今回は随分多いですね。定年退職か何かの関係なのか、ほとんどうちの組織で小名浜の 1 件だけが違う求人かと。

##### 【船員労政課長】

地区別でいきますと、気仙沼と小名浜で漁業取締船の件数が出ていました。

##### 【高橋委員】

ありがとうございます。

##### 【部会長】

よろしいですか。何か疑念があったのですか。

##### 【高橋委員】

いえ、前回は結構多かったのですが、また今回も漁船関係で取締船ではなくいか釣りなどで、いか釣りも 1 月の末とか 2 月に終わっていますし、さんま船も 12 月に終わっていますので、また

次年度の操業に対して求人が出ているのかと思い、聞いてみました。

【部会長】

全体として漁船が、結構求職が長期的に見て低落傾向が止まらないという話で、それを商船に対する求職が補っている。求職と求人がそれぞれ逆であるという構造の中で全体が少し減っていくという構造でしょうか。だから、供給力が衰えている。特に漁船が厳しい。商船に乗りかえていと言ったらいいのでしょうか。このような構造はどのように解釈したらよろしいですか。

【高橋委員】

若い人がなかなか漁船のほうに入ってこないというのが一番じゃないかと思います。また漁獲によって収入にばらつきがありますので、それと比べれば内航船のほうで収入の面で安定しています。今年は、いか釣りが大分、漁獲高が少ないものですから。その辺で若い人たちが方向転換に向いている部分もあります。

【部会長】

何かちょっと大きな変化がありそうですね。単なる不況云々の話ではない構造転換か何か、東北地方の船員関係にあるのかなと思ってずっと見ていますが、今日はその傾向が強く出たのかなと思います。

ご質問、ご意見等、ほかにいかがですか。

【高橋委員】

やはり取締船も用船で動いていますので、収入は安定しています。ただ、漁船、内航船と比べると賃金がちょっと抑えられています。

【部会長】

契約はどれくらいなのですか。1年間ですか。

【鈴木委員】

1年間です。

【高橋委員】

水産庁から委託されていますので、国の予算次第ということです。その辺で乗組員の賃金にもはね返る部分になってきます。

【部会長】

わかりました。ありがとうございます。そういう変化をちょっと持続的に見ていきたいと思っています。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ないようでしたら、この報告をご承認いただいたということで先に進めたいと思います。

(2) その他

【部会長】

では、次に議題(2) その他ということで、情報提供、情報交換等を行いたいと思います。労働者委員のほうから、いかがでしょうか。

【高橋委員】

それでは、前回お話ししました内航船、大型カーフェリー等の妥結の状況です。新聞情報にも載っていますが、一通り大まかに説明したいと思います。

内航2団体については、29日に5回目の交渉で妥結に至っています。内容としましては、艀装員手当を月額基本給の25%。20%から5%プラスの25%に。標令算出の基準における水産系高校

卒業者の取り扱いについての標令を1歳上の18歳。作業手当の一部改善については運用面で対応するということで整理されております。家族呼び寄せ費についても、この文言の整理と、明確化するということです。職務給の見直しについては、要求は取り下げております。年間臨時手当は一昨年より1.1割アップの41.1割で妥結しております。

次に、全内航は、これも29日に第5回目の交渉で妥結に至っています。Mゼロ船機関部手当、Mゼロ船慰労金の新設については、これは継続して協議することになっています。艀装員手当の改善ですが、内航2団体と同じように5%の改善になっております。標令算出の基準についても水産高校卒業者について18歳。家族呼び寄せ費についても、内航2団体と同じような内容です。年間臨時手当は一昨年より1割アップの38.5割で決まっております。

大型カーフェリーは、これも全社19社ありますが3月30日に妥結しております。職務給の見直しについては、員給で640円のアップ、三航・機士で840円のアップになっております。艀装員手当については、月額基本給の20%から30%の改善を求めておりましたが、これも内航と同じように25%相当額で妥結しております。

協約関係については、以上です。

あと、八戸で4級、5級の海技講習がありまして、これが3月に終わっています。当初18名が講習を受けたのですが、卒業するときには15名で全員合格しております。航海が8名、機関が7名、全員合格ということ聞いております。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。何かご意見等、いいですか。よろしいですか。

では、使用者側ということで、ございますでしょうか。

【佐藤委員】

私どもの旅客船、観光船の東京電力の損害賠償について、今おおむね半分ぐらい出ているようです。投資に回すところもあれば、臨時手当を出すところもあればいろいろですけども、ようやく見通しがついたので業界としては安心しているのですが。

【部会長】

どうもありがとうございます。湯村委員のほうはいかがですか。

【湯村委員】

特にはないのですが。以前お話ししましたが、新日本製鐵と住友金属の合併によって、それぞれの物流会社もこの4月に統合しまして日鐵住金物流という会社になります。そこは鉄鋼の最大のオペレーター、船の内航船のオペレーターということで、120隻を超える船の運航をしているのですが、やはり合理化のための統合なので運航も大分合理化が図られて船が余ってきていて、古い船から順に用船解除されているという状況が出てきているようです。

それで、そういった余った船は東北のほうの復興需要があるのではないかとしばらくとめて様子を見ていたらしいのですが、結局東北のほうもさっぱりいつになっても始まらないということで。これ以上負担増はもう耐えられないということで、それが海外売船のほうにまとまって出始めています。要するに大量に出回ったもので、海外売船船価も暴落傾向にあるということらしいです。それは一般貨物船の場合ですが。

【部会長】

はい、ありがとうございます。実態経済だめですね、少なくとも量的な面では。

【高橋委員】

私のほうからもう一つ。水産経済新聞の4月6日と4月10日の分を皆さんに配っていると思い

ますが、要は燃料高騰に対するセーフティーネットということで、4月10日の分の払い戻し200億円超積み立てプラスとありますけれども、こちらのほうに事業種目ごとの支払い戻し額ということで、底引き網漁業には23億円、巻き網漁業には13億円だという支払いの記事が載っていますので、参考にいただければと思います。

【部会長】

いか釣りが結構ひどい影響を受けたということを新聞に書いてありましたけれども、東北のほうはどのようなのですか。今後何か出てきますか。

【高橋委員】

実際に去年の水揚げが悪くて、1社、八戸で。やはり燃料の高騰、このようにセーフティーネットに入っている部分では、その払い戻しを基にして今年の出漁という計画をしている会社もあるみたいですが、これが今月から来月ぐらいにお金が払い戻しになるというようなことを聞いています。ただ、魚価のほうが大分低いものですから。ブロックのほうでは少し値段が高いようなことは聞いていますけれども、全体的に見るとやはりちょっと経営には厳しいというような水揚げ状況だったということです。

【部会長】

ありがとうございます。悪い意味でいろいろありますが、見ていきたいと思えます。ほかに何かございますでしょうか。

【清水委員】

新聞情報の2ページに出ている「海洋共育センター」ですが、業務内容的には私どもとバッティングするところもあるかなと思いつつ、まだ私のほうもこの海事新聞ぐらいしか知らないのので、何か詳しい事をわかっていましたら教えていただきたいのですが。

【海事振興部次長】

これについては、新聞情報だけで詳しい事はうちのほうもわからない状況です。

【清水委員】

そうですか。

【部会長】

何か情報を取り寄せるすべはありますか。もし何かありましたら、次回ぐらいまでに。

【海事振興部次長】

もし入手できれば。

【部会長】

清水委員を対象にご用意いただければと思います。よろしく願います。

それ以外にはいかがでしょうか。

【湯村委員】

これはほとんど本当の小型船ですよ。199トンとか299トンとかそういった船をターゲットに動いているようなので。私は東北内航海運組合ですが、これは中国地方海運組合連合会という少し大きな組織で、そこが中心になってやっているようなのですが。こちらのほうに直接資料を求めれば詳しいことは知り得るかもしれません。

【海事振興部次長】

確認してみます。

【部会長】

ということで、次回までお待ちください。よろしく願います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

【湯村委員】

質問なのですが、資料集の最後に退職自衛官の記事が載っていて、自衛隊援護協会がこんなことをやっているという内容で、採用した企業には一人につき月額6万円を6カ月間支給するとありますが、このお金というのは国の予算から出るのですか。それとも何か互助会みたいなものがあってそこからその予算が出るのですか。

【海事振興部次長】

ここは新聞情報だけで詳しくは調べていませんでした。

【湯村委員】

何かちょっと不思議な気がして。

【海事振興部次長】

ここも確認してみたいと思います。

【湯村委員】

退職自衛官のためにもし国の税金が使われているのだとすると、何かちょっと疑問に感じたのですけれども。

【部会長】

いろいろ含みがあるかもしれませんが、きっと国のお金ではないのですか。

【佐藤委員】

普通だと雇用調整助成金というのをもらうでしょう。それは労働局からもらうのですよね。だから、これもそういうので共済組合に積んでいるのかもしれないし。

そうでないと、自衛官は54、5歳で辞めるのだから。その後のことを考えないと。

【部会長】

もっと若くして辞めるのではないのかな、違うのかな。

【佐藤委員】

そうですね。曹長の場合は54歳であるし。

【海事振興部長】

いや、国から認定され、採用すると6万円という話かもしれない。そうすると国から出ているかもしれないので、確認します。

【部会長】

その辺りも含めて直接利害関係もあるかもしれませんが、業界としては。こちらの情報を、もし探していただければお願いします。

【高橋委員】

これは国交省のですよね。補助金になりますよ、これは。

【湯村委員】

新卒者も採用しようと思うのだけれども、こちらは補助金出るからこちらにしようかなということがあられるかもしれないですね。

【部会長】

長期的に見ると若い人を雇ってあげたほうが。

【湯村委員】

そうですね。

【高橋委員】

この情報のように、自衛隊の場合は自衛隊の中の資格だけでいいですよ。うちら民間が乗る場合は4級なり5級なり海技資格を持たないと乗れないわけですよ、実際には。

【佐藤委員】

どうなのですか、遠藤課長。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

そうですね。自衛艦は自衛隊の中の資格です。

【清水委員】

ですから、その任期制の若いほうとしたら、潜水艦に乗ってましたというのもうちの学校へ入っていますので。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

私も八戸にいた時に自衛隊の若い人が辞めてきまして、やはり機関はやっていたのですけれども、免状を持っていないのですよ。自衛艦の機関場をやっていたのです。ですから、新たに取らねばと。

【清水委員】

自衛艦というところが受験用の乗船履歴にならないのですよね。

【佐藤委員】

そうですか。

【清水委員】

聞いてみたら、単純にバルブ操作でこの辺で立っているだけみたいな形で。エンジン全部を見るとかそういう仕事になっていないので、とても乗船履歴とは認められないというような形らしいので。人手が多い分ですね。

【部会長】

自衛艦というのは人手が多いのですか。

【清水委員】

ええ。だから、どんなことをやっていたと聞いたら、中間に立って指示された通りバルブ操作や何かをやっていたということだけで、とてもエンジンのシステム全体を見るような仕事をやっていないと。だから、普通の船のほうの海技試験の乗船履歴にはすごくなりにくいという。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

船自体がやっぱり特殊なのでしょう。

【佐藤委員】

普通、民間だと15人ぐらいしか乗組員がいないのに、あの人たちは200人ぐらいいると。そうすると、それを分担しないとだめだから。

【部会長】

よろしいですか。では、もし何か情報がありましたら、よろしく願いいたします。

ほかには何かございますでしょうか。

今日は新年度の初めということで。知った顔の面々ということもあり、やりやすいのもあると思いますので、今年度もどうぞよろしく願いいたします。

◎閉 会